

平成 27 年度認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里  
事業報告書

1. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	9	9	8	8	8	8	
退去	0	0	1	0	0	0	
新規入居	0	0	0	0	0	0	
定員 (延)	270	279	270	279	279	270	
実績 (延)	270	268	256	240	248	240	
利用率	100	96.05	94.81	86.02	88.88	88.88	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実人数	8	8	8	7	9	9	
退去	0	0	2	0	0	0	3
新規入居	0	0	0	1	2	0	3
定員 (延)	279	270	279	279	261	279	3,294
実績 (延)	248	240	243	195	232	279	3,059
利用率	88.88	88.88	87.09	69.89	88.88	100	92.86

\* 平均介護度=3.22 (年度当初) → 3.11 (年度末)

平成 26 年度より重度化の傾向は継続し、6月に1名の看取りを行った。同様に12月に1名の看取りを行った。食事の介助が必要な方が半数を占め、車椅子を使用しなければ移動できない方が半数を超えた。食事の認識や嚥下障害など食事介助中に注意を要する方も多く、一名の方は経口摂取困難で病院へ長期の入院となり退去となっている。

職員配置の問題があり6月の退去以降、新規入居を受け入れず経過した。そのため7月以降の稼働率が低く継続した。その結果年間稼働率も92.86%の結果となった。

2. 収支状況

収入については、本年度は介護報酬改定の年であり、認知症対応型共同生活介護費（本体報酬）の単価も減少した。そのため本体報酬だけでも1,600,000円の減収（稼働率100%、介護度分布平成27当初）となった。さらに、職員配置の問題により入居者1名の補充を行わず7月を経過したため、2,400,000円の収入を得ることができなかった。

支出については、職員配置が大きな問題となった。退職を希望する職員があり4月の年度当初には退職予定の職員が退職後も通常の運営が可能な人数を確保してスタートしたが、5月に1名、6月に1名、8月に1名10月に1名が別に退職した。この間に新たな補充を行っているが、全く定着せず、年次有給休暇を消化する職員に給与を支払い、定着しなかった職員に給与を支払い、人件費ばかりが嵩む悪循環に陥った。11月より労働者派遣を受け、体制の立て直しを図った。労働者派遣は直接雇用の1.5倍程度のコストが掛るが事業継続のためやむを得なかった。また人件費支出のうち、介護職員処遇改善加算の給付率が、0.039%から0.076%に引き上げられたことにより、手当の支給額は808,491円が1,833,385円に上がり人件費が結果的に平成26年度を超える結果となった。

職員配置の問題は事業費においても食事の調達を外部委託することによるコスト高など他の部分にも影響を及ぼしている。

これらによって他事業より合計で2,700,000円の繰り入れを行ったが、収支差額は5,281,170円の赤字となった。

3. 職員研修

施設内部研修と、外部の研修を受講し職員育成を図った。

○ 内部研修内

職員配置の問題によって計画通りの実施ができていない。管理者より実施を促しても実施されなかった。

H27.4.27 介護保険制度の改正

- H27.5.19 水分摂取の必要性とその方法
- H27.6.18 福祉の理念研修 その1「福祉の哲学」
- H27.7.3 福祉の理念研修 その2「人の価値 ハンセン病の歴史から学ぶ」
- H27.8.5 福祉の理念研修 その3「社会福祉概論」
- H28.2.29 かんどの里研究発表会
- H28.3.18 避難訓練
- H28.3.24 避難訓練

○ 施設外研修

- H27.5.16 地域ケア会議実践研修
- H27.6.3 出雲地域介護保険事業者連絡会総会研修
- H27.6.17 島根県老人福祉施設協議会総会研修
- H27.6.24 ストレスチェック制度研修
- H27.7.1～7.7 認知症介護実践研修実践者研修
- H27.7.7 人事制度構築セミナー
- H27.10.2 人事考課制度の設計・運用セミナー
- H27.11.19 出雲市認知症グループホーム連絡協議会研究・実践発表会
- H28.3.28 高齢者虐待防止研修会

4. 行事及び地域交流

毎月季節の行事や歳時記にあわせた季節感のある行事、利用者の誕生日に合わせた誕生日会を開催した。

- H27.4.2 誕生日外出（キララ多伎・プティパトラン）
- H27.5.2 八十八夜お茶会
- H27.5.10 母の日
- H27.6.5～6 菖蒲湯
- H27.6.12 遠足（出雲大社、そば縁）
- H27.6.27 梅サワー作り
- H27.7.10 七夕会（神門幼稚園）
- H27.7.24 土用の丑の日
- H27.8.29 納涼祭（B型サロン共催）
- H27.9.25 敬老会
- H27.10.8 墓参り
- H27.11.2 吊るし柿作り
- H27.11.10 誕生日外出（ジョイフル）
- H27.11.28 文化祭（B型サロン共催）
- H27.12.21 そば打ち（神門蕎麦の会）
- H27.12.22～23 ゆず湯
- H27.12.25 クリスマス会（神門保育園）
- H28.1.8 新年のお茶会
- H28.1.10 とんどさん（沖北集会所）
- H28.1.14 味噌作り
- H28.1.30 新年会（ご家族）
- H28.2.3 節分
- H28.3.3 ひな祭り
- H28.3.19 出前喫茶（神門地区ボランティアセンター）
- H28.3.22 誕生日外出（シーじゃック駅南店）

季節行事や地域行事は例年通りに実施した。10月に予定していた収穫祭は職員配置の問題により実施できなかった。

5. 理念に基づいたケアの提供

今年度は5月に介護職員による不適切な言動があり、出雲市より聞き取りと指導を受けた。職員に個別面談を行って事実確認を行ったが、施設長や管理者、指導を行う職員がいる前では行わないが、

新任職員の前で乱暴な声かけや介助を行っていた事実があった。これに対し、職員会議や内部研修会などで理念の再確認やストレスの共有、目指すべき介護について話し合いを行った。重度化する利用者への対応力に個人差が大きくなっており、職員の能力の差についても補充し合うことを意見交換した。しかし、その他の職員にも声かけがきつい場面がありストレスのコントロールが必要な状況であった。繰り返し職員会議で話し合いを行いながら、悪いムードの払拭に務めた。

ケアについては前年度と同様に、生活リズムを大きく変えずに毎日、それぞれの利用者が役割をもって日々の生活を送って頂くように努めた。入居者が漸次的に重度化するなか、前年度と同様の生活がなかなかできなくなってきたが、一人一人に合わせた対応に努めた。家族の面会も多い方少ない方とあるが、出来るだけ家族が施設から離れないように、誕生日、行事、お小遣いの補充など何かある度に家族に協力を呼びかけ、赴いて頂けるように努めた。誕生日には利用者本人が生きたい所へ家族と職員が付き添って外出することができた。

納涼祭は地域の B 型サロンとの共催となり事業所が地域へ貢献する一つの役割を果たした。ボランティアの受け入れや地域行事への参加も行い地域で暮らし、地域と支えあうことも定着し地域からの期待の声もある。

## 6. 居宅サービス計画

計画作成担当者が産前産後休暇及び育児休業を取得するため、認知症介護実践者研修の受講をさせた。しかし、保有資格程の能力がないため、小規模多機能型居宅介護の職員を兼務させ、出雲市に事情を説明したなか許可を得て基準を満たした。

カンファレンス、居宅サービス計画書の更新は定期的に行った。24 時間シートの更新が停滞しており、再稼働に向けた指導が必要となっている。また、職員個々には利用者の状態をアセスメントする能力や自立支援の視点をもったケアを行う能力を伸ばす必要がある。

## 7. 職員の体制

前年度末より退職を希望している職員があり、その補充を終えて今年度を迎えたが、5 月に 1 名、6 月に 1 名、8 月に 1 名 10 月に 1 名が別に退職した。この間に求人をして新たに採用しているが一月見せず退職するなど定着せず、中には行方不明となるものもあり職員体制は不安定であった。そのため夜勤者を配置できない、早朝、夜間の職員が配置できない等の問題が起こり、事業所の運営ができなくなる可能性が出るころまで悪化した。人件費が賄えないため、派遣労働者の受け入れは避けてきたが、11 月に派遣労働者を導入し、また有料人材紹介を受け体制の立て直しに務めた。本来の求人条件と違う条件の方でも受入れをして全体の人手の確保をするなどして何とか年度末を向かえている。来年度にはこれらの余剰となる職員の配置を検討しなければならない。

## 8. 次年度に向けた課題

毎年のように課題となっているが、職員配置の安定が第一である。平成 28 年に向けて新卒者の内定もしており、育成と定着さらに事業所の力のなる人材へと育成しなければならない。ベッドの空きがあるなか毎月のようにグループホームの入居について相談の電話を受けている。グループホームへのニーズは高く、また問い合わせて頂ける事業所となっている。職員配置の問題により受入れ困難となり、経営危機を迎えることの無いよう、人材確保と育成が次年度も重要課題である。